



経営管理（役員によるレクチャーの様子）

- 本社所在地：東京都中央区日本橋富沢町16-5 SGビル4階
- 事業概要：子会社の経営管理、新規事業の創出、M&Aによる事業拡大、各種コンサルティング
- 常時使用する従業員数：91人（グループ全体・2024年7月期）
- 現在の売上高：14.8億円（グループ全体・2024年7月期）
- 法人番号：5030001152683
- Web：https://shinei-holdings.co.jp/

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役社長
中村 新一

モノづくりの未来を創る

新栄ホールディングスは『社長はいても経営者のいない日本の中小企業』の中にあって、日本の技術力にこだわり、職人社長の強みはそのままに、ホールディングスが経営管理を一手に担う事で、中小企業の事業継続性を高めていきます。その中で、M&Aや新法人の設立を積極的に行い次世代の技術者育成を可能にする事で、中小企業の持続的成長のシンボルとなり日本の製造業全体底上げの一助となる事を目指しています。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

金型、機械装置等周辺産業を新規法人化、M&A等を行い、販社を設立し部品量産加工を中心に事業拡大。100億を目指す。



課題

- ・経営管理人材の育成。
- ・海外販路の開拓及びその人材の確保。
- ・技術承継のデジタル化。
- ・事業ドメインの拡張。

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

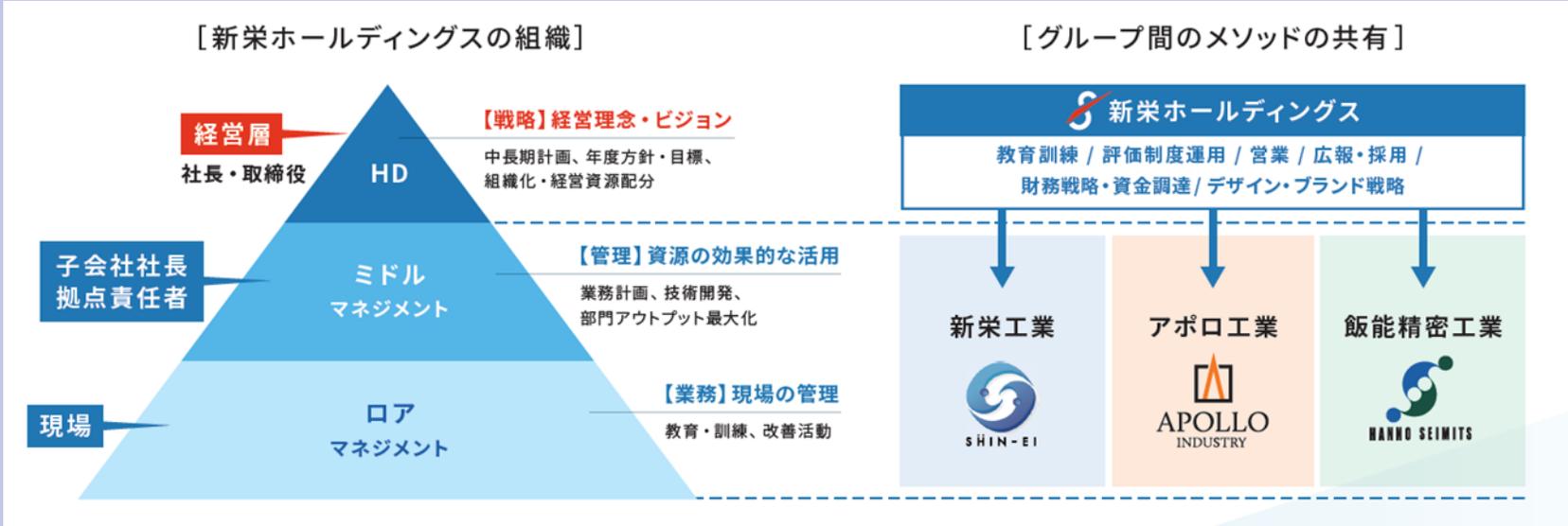
- ・2024年8月に新設した金型製造事業会社を2025年に本格稼働し、早期収益化を目指す。
- ・2026年技術者育成に仮想空間（VR）で教育できるツールを開発。2027年運用開始。
- ・グループ内に販社機能を新設し、金型事業の収益拡大や海外販路の開拓を行う。
- ・機械装置製造事業への進出を行い、事業ドメインの拡大を行う。

実施体制

- ・新事業創出及び開拓・・・代表取締役社長 中村新一
- ・子会社経営管理統括・・・取締役副社長 藤井弘貴
- ・営業及び製造現場統括・・・取締役 小田省一
- ・財務及び管理部門統括・・・取締役 山内謙太郎
- ・部品量産加工
(株)新栄工業、アポロ工業(株)、飯能精密工業(株)
- ・金型製作 (株)アポロ技研

※本宣言は企業自身はその責任において売上高100億円を目指して、自社の取組を進める旨を宣言するものです

売上高100億円実現に向けた組織体制



職人社長が牽引する日本の中小企業の課題

トップ自ら技術開発を行うので、特化したニッチで尖った技術を持ちやすい。
しかし、経営戦略に乏しくなりがちで事業継続性が低くなりがち。
日本の経済が右肩上がりだった時はこれでよかった。

解決！

子会社社長が職人社長であっても回る組織作り

HDが経営管理を一手に担い、現場はモノづくりに専念できる仕組みづくり。
職人社長は技術優位性を保つためにも絶対悪ではない。
ただこれからの激動の時代、経営管理ができる経営者人材が組織には必要。

ホールディングス組織体制



新事業創出・開拓
代表取締役社長CEO 中村新一

2005年新栄工業入社
2014年同社代表
2020年アポロ工業代表
2023年飯能精密工業代表
2023年新栄HD設立
2023年同社代表就任
2024年素形材産業経営賞受賞

日本金型工業会理事
吉川市産業振興会議副会長



子会社経営管理統括
取締役副社長COO 藤井弘貴

2025年新栄HD入社
2025年同社取締役就任
2025年同社副社長COOに就任
2025年新栄工業取締役就任
2025年アポロ工業取締役就任
2025年飯能精密工業取締役就任

中小機構中小企業アドバイザー（経営支援）



営業・製造部門担当
取締役 小田省一

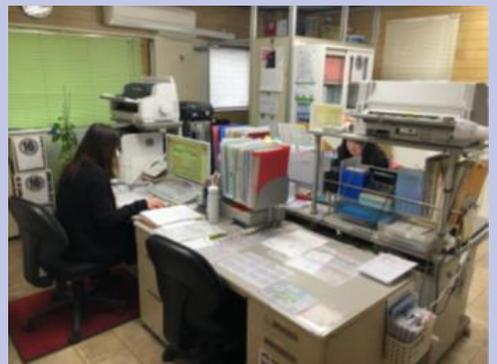
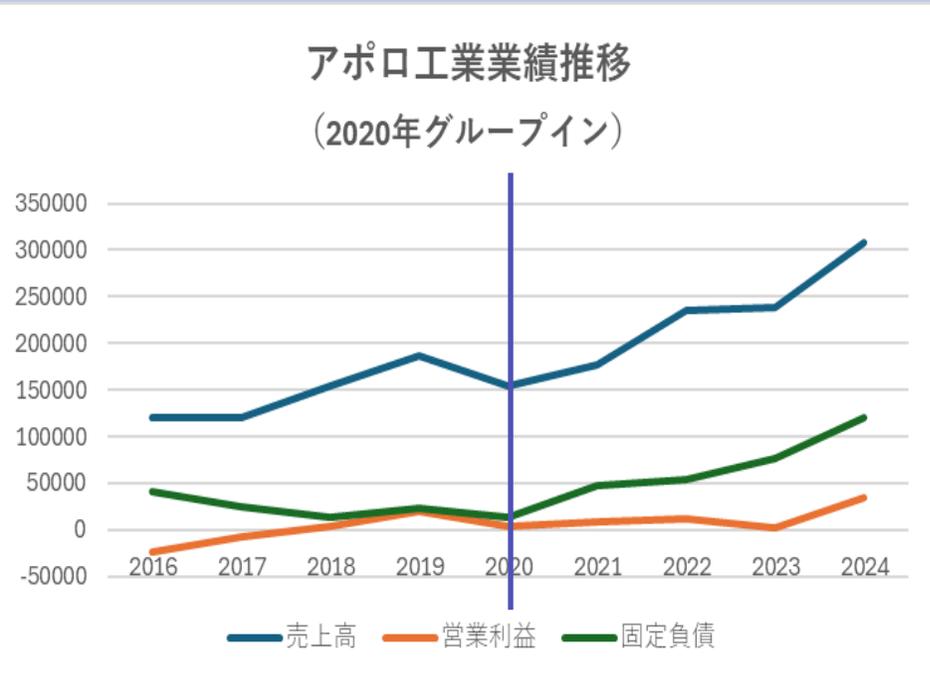
2008年アポロ工業入社
2023年アポロ工業取締役
2023年新栄HD入社
2023年同社取締役（営業、製造統括）
2024年アポロ工業専務取締役就任
2025年新栄工業取締役就任
2025年飯能精密工業取締役就任



財務・管理部門担当
取締役 山内謙太郎

2008年住友3M（現3Mジャパン）入社
2012年ミスミ入社
2019年テクニウム入社
2023年新栄HD入社
2023年同社取締役（管理部門統括）
2024年新栄工業取締役就任
2025年アポロ工業取締役就任
2025年飯能精密工業取締役就任

経営改善実績 1/3



2020年4月

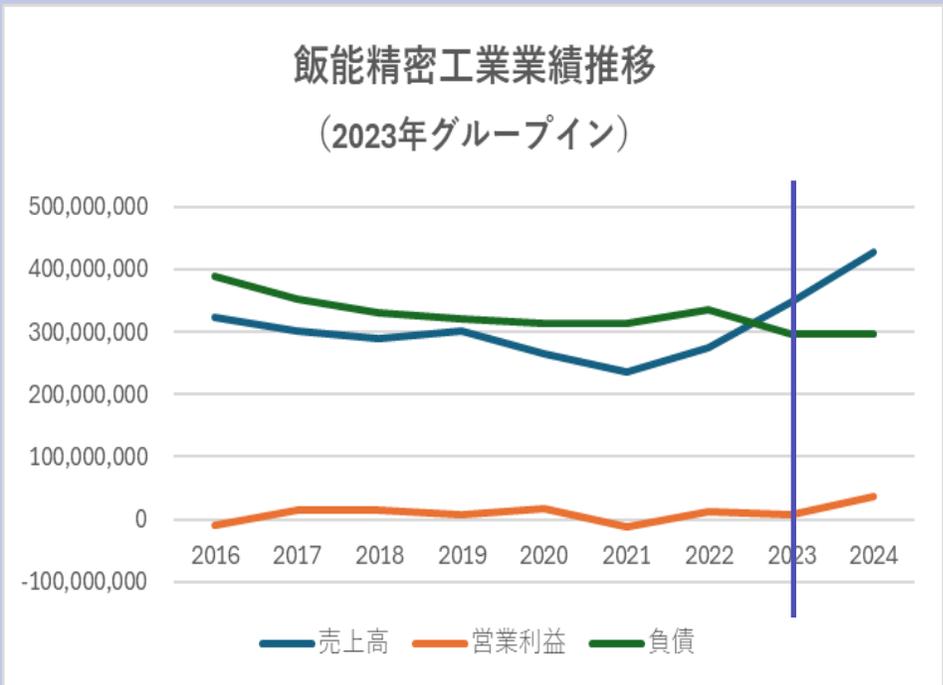
写真でみるアポロ工業の変化



2021年11月

アポロ工業の経営課題と実施した解決策
安全設備導入、必要資格取得等の安全衛生面強化。
安全衛生面強化に向けた社内教育。
組織再構築、それに向けた業務分掌における社内教育。
受注逼迫におけるグループ内での人的支援。
受注増加に対応する為の新規外注先（福岡T社）開拓。
T社との設備貸与含めた業務提携契約の締結。

経営改善実績2/3



飯能精密工業の債務超過状況

創業者の作った借入の為、減価償却はほぼ無。
10,000千円/年の利益を出していたが、
逆に3,000千円/月の返済+法人税が発生する状態。
コロナにおいて売上を落としてしまい返済不能に。

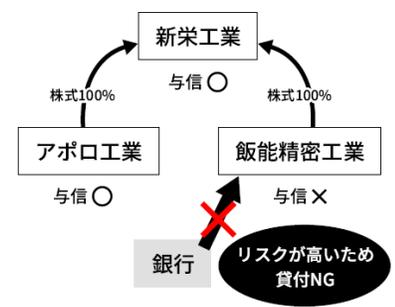
	銀行借入	役員借入	金利	小計	最長完済日
短期借入	6本	3本	約1.9%程度	170,652千円	年度更新
長期借入	12本	無し	約2.0%程度	135,511千円	2029年1月

HDによるグループファイナンスにより解決!

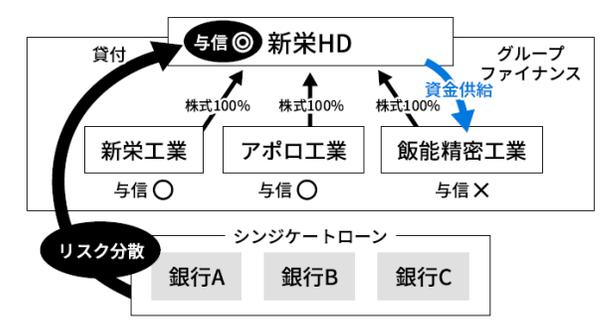
飯能精密工業の経営課題と実施した解決策

安全設備導入、必要資格取得等の安全衛生面強化。
多重負債によるキャッシュ切れ解決の為のHDによる
グループファイナンスの実施。
組織再構築、それに向けた業務分掌における社内教育。
アポロ工業の並行生産先としての設備導入。
既存顧客に対するホールディングスからの価格交渉。

<従来の体制>



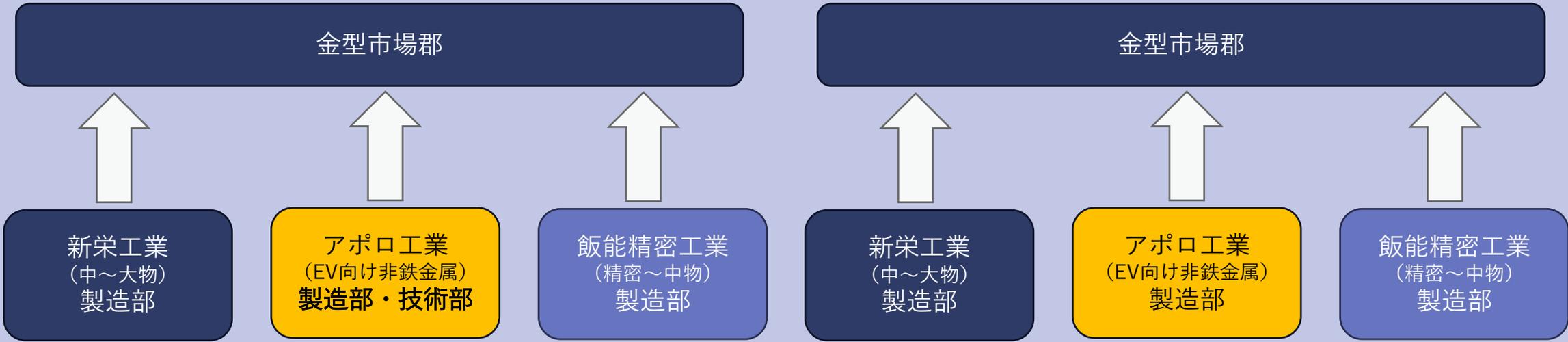
<純粋持ち株株式会社設立後の体制>



○法人番号：8040002005168（株式会社新栄工業）、4030001065424（アポロ工業株式会社）、9030001089542（飯能精密工業株式会社）、9010001247399（株式会社アポロ技研）

経営改善実績3/3

技術を次世代に繋げる取組



金型業界における技術者育成における課題
 設備産業で且つ一般的に特定の産業に依存しがちな金型産業は安定的な経営が出来ず、結果、技術者の育成を困難にし、業界全体で技術承継が順調に行われていない。

金型ユーザーでもある我々はそれぞれ別分野にて営業を行っているプレス加工業者のホールディングスカンパニーである。



特定の産業に依存しない、金型専門企業の設立

受賞及び外部への発信



2024年素形材産業経営賞受賞

既述の取組が評価され2024年には素形材センター主催の第一回素形材産業経営賞において素形材センター会長賞を受賞。



外部発信

挑戦的な経営者が増え、日本の中小企業が再度輝きを取り戻す未来を願い、週一回の更新で自らの事業の状況、経営に対する思いを発信する場とし「ものづくりの未来ラジオ」も運営。こちらは従業員教育にも成果を出している。

新栄ホールディングス（株） / 金型・プレス

取組のポイント

◇経営の安定化、技術者の確保

- 金型製造は、発注者の開発計画等の影響を受けやすく、経営の安定化や長期的・計画的な人材育成が難しい。
- こうした課題を解決するため、**金型・金属プレス加工メーカー3社をグループ化**。特定の産業に依存しない**安定した受注、技術者の確保・既存技術の承継、新規顧客の開拓**。

どのように取組を 実行したか

◇金型・金属プレス加工メーカーのグループ化

- 技術力はあるがそれぞれで経営課題を抱えていた3社がグループ化。**金型受注の平準化、金型技術者の安定的育成、経営戦略の策定、資金調達等**を実施。
- 負債返済で経営を安定させ、設備投資を実施し、新たに生産体制を確立。

成果

◇単独では難しい取組をグループ化することで実施

- リソースが限られる個社では難しい経営戦略の策定、金融機関からの資金調達等により、経営を安定化。
- 新たな社内体制づくりにより目標が明確になり、チームワークが向上。
- グループ全体で人材育成を実施し、**従業員のキャリアアップの機会**が広がり、**リーダー育成**にも寄与。

■創業：2023年

■所在地：東京都

■資本金：300万円

■従業員数：100人



素形材産業ビジョン

経済産業省素形材ビジョン「前向きな挑戦を行う素形材企業事例」に掲載（P8）

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/sokeizai/jireir.pdf

企業成長を加速させる課題解決型SHINEI METHOD

SHINEI METHOD

海外企業との競争の激化、仕事量を通年で安定させることの困難、将来を担う若手技術者の不足など、課題を挙げればきりがありません。そんな時代だからこそ、会社が共に手を取り合い、支え合うことが求められています。

私たち新栄ホールディングスは6つの力をグループ企業で共有することで、グループ間の垣根を超えて課題解決に挑戦しています。

新栄ホールディングスは共助の精神で日本のものづくりの未来に貢献していきます。



01考える力
社員が中心の評価制度、賃金制度

02成長する力
グループ間で取り組む教育訓練

03発信する力
時代に合わせた広報・採用

04助け合う力
仕事の共助とシナジー

05目指す力
目指す想いの共有
企業ブランディング

06共有する力
資金は会社の源
グループを超えた財務戦略

事業ドメイン

金属加工技術をコア事業とした「モノづくり」の総合グループへ

2025年



2034年



中長期事業計画

事業名	中長期計画	実行具体策
ホールディングス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営基盤の強化 （事業会社の経営管理力向上） ・ グループファイナンスによる財務体質の安定化 ・ シナジーを生み出すM&Aの実施 ・ 管理部門の統合によるスリム化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業会社の経営資源の最適化による収益構造改革の実施 ・ 事業会社の資金繰りおよび投資計画の管理 ・ 技術系事業に特化したM&Aの実施 ・ ホールディングスにて管理部門（財務、経理、人事、総務）のシェアード化
既存事業 ・ 金属プレス加工 ・ 金型製作	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の保有技術の深耕による技術力向上 ・ グループ内の連携による取り扱い品目の拡大 ・ 適正なコストを実現する生産管理システムの運用 ・ 人財育成の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ内で保有している技術の明確化と共有の実施 ・ 技術特性に応じた効率的なグループ内生産の実施 ・ 生産管理システムの導入による管理の共有化 ・ 技術者育成を重点にした教育訓練制度の運用
新規事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ FA（Factory Automation）による生産工程の効率化及び省力化 ・ 商社機能新設による営業機能強化 ・ 技術伝承特化型教育システムによる技術力の保有 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機械装置製造部門の新設 ・ 事業会社の営業部門を商社機能へ集約化 ・ VRなどを活用した技術力向上に特化した教育システムの開発

注）新規事業については、M&Aによる事業拡大も含む